札幌市指定
無形文化財

［おかだまししまい］

丘珠獅子舞

富山県がルーツの丘珠獅子舞

丘珠獅子舞は、明治25（1892）年に富山県の小矢部川左岸の福野町安居を中心に、岩木、川崎、興法寺などの村落からの移住者によって伝えられ、以来、丘珠神社祭典に奉納し、今もなお、当時の姿をそのまま伝承している。

昭和37（1962）年から同39（1964）年まで祭典奉納を休んだが、地域をあげて復活の要望があり、昭和40（1965）年、獅子頭とカヤ（胴）を新調、衣装・装備を充実させ、要員も確保し、再び奉納された。

百足獅子

舞は、神社までの「道中」、神社鳥居から拝殿までの「行列」、および拝殿前の「にらみ」の所作があり、その他に、用具別に12の舞がある。

舞の構成は、獅子頭振り1人、全長8mのカヤの中は尾持を入れて7人で、多人数で舞う獅子舞は「百足獅子」と呼ばれる。さらに、獅子取りは小学生から大学生まで8人くらい、笛5人、太鼓2人、その他に先導の幟2人、露払いの天狗と般若各1名の合計27名からなっている。しかし、頭振やカヤの中の人々は、激しい動作のため、別に10人くらいの代替要員を必要とする。

丘珠獅子舞の保存・伝承

この獅子舞は「丘珠獅子舞保存会」によって、保存・伝承が図られており、祖父、父から直伝の舞曲を受け継いだ人々が中心となっている。

なお、毎年丘珠神社の秋季例祭には獅子舞を奉納している。

この獅子舞は、開拓者の精神的よりどころとして伝承されたもので、歴史的意義は非常に高い。

舞の種類

1. 小薙刀の舞	7. 跳び棒の舞
2. 剣の舞	8. 太刀の舞
3. 扇の舞	9. 二人太刀の舞
4. 鎌の舞	10. 大薙刀の舞
5. 棒の舞	11. 唐傘の舞
6. 引き棒の舞	12. 乗り獅子の舞

- **保持団体名：**札幌市無形文化財 丘珠獅子舞保存会
- **指定年月日：**昭和 49（1974）年 10 月 25 日
- **公開場所：**札幌市東区丘珠町 183-4 丘珠神社
- **演技公開：**丘珠神社秋季例祭（敬老の日）
- **アクセス：**中央バス「丘珠神社前」